

龍郷町立赤徳小中学校における環境教育推進の取組

1 本校の学校教育目標と環境教育の目標

学校教育目標：心身ともに健康で、豊かな感性を持ち、主体的に行動する児童生徒の育成

環境教育の目標：・ 地球の環境破壊に関心を持ち、限りある資源やエネルギーを大切にしようとする態度を養う。

- ・ 動植物の世話をとおして、動植物に対する愛情と生命尊重の心を育てる。
- ・ 郷土の自然に親しませて、自然環境保全に対する意識を高め、進んで自然を守ろうとする態度を育てる。
- ・ 自然環境を破壊する原因についての認識を深め、自らその原因をなくすよう努める態度を養う。

2 主な実践内容と考察

(1) 総合的な学習の時間「シーカヤック体験しよう」

本校区は、学校の目の前に赤尾木湾があり、眺望豊かな景色をいつでも見渡すことができる。また、その周辺に海洋生物、鳥類、蝶類を初めとした昆虫類、植物群などが数多く生息し、自然観察にも適した環境に恵まれた地域である。本校ではこの恵まれた自然環境や郷土の伝統を生かした活動を環境教育の一つの柱として設定して、総合的な学習の時間を中心に年間を通して取り組んだ。小学校の5・6年生で2時間実施するシーカヤック体験では、校区のインストラクターの方に講師をお願いし、乗り方や体験を行うことで、見慣れた風景でもある海での活動の素晴らしさや安全面について学ぶことができた。海への関心の高まりを生かして、海洋や周辺の動植物の教材化を進め、来年度は、さらに探究活動の充実に取り組みたいと考えている。



【シーカヤック体験】

(2) 総合的な学習の時間「島唄・三線」



【学習発表会での島唄・三線の演奏】

中学校では、地域の自然環境との関わりから生まれてきた島唄の保存・伝承も環境教育の重要な視点と考え、総合的な学習の時間に「島唄・三線」に取り組んでいる。まずオリエンテーションの中で、講師に三線や島唄の歴史についての話をしていただき、次に音合わせや曲の基礎練習「行きゅんにゃ加那」を15時間、これらを、11月の学習発表会に向けて学年別に続けていく。年度末には、卒業式に赤徳版「行きゅんにゃ加那」を演奏し、卒業生を送る。単に技術のみの習得だけではなく、三線の演奏を通じ、島の伝統文化の良さを再発見し、後世に継承していくことの重要性に気付くことを目的として活動している。本年は、1年生がこの島唄や三線の伝承を「その一人に」と題して発表し、

少年の主張県大会において優良賞を受賞するという、うれしい成果もあった。